

平成28年4月18日

平成28年度病害虫発生予報第1号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	やや多	やや多
	赤かび病(防除情報第17号継続)	-	並
ばれいしょ	疫病(注意報第1号)	多	多
	アブラムシ類	並	やや多
	ジャガイモガ	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	やや多	やや多
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	やや多	やや多
かんきつ	そうか病	-	並
	かいよう病	-	少
	ミカンハダニ	多	多
なし	赤星病	並	並
	黒星病	並	並
	アブラムシ類	並	並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	やや少	並
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の()内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、大麦では発生を認めなかった(発生を認めない)、小麦では発病茎率は7.1%(0.0%)、発生圃場率は33.3%(1.7%)であった。

イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、大麦では発生を認めなかった（発生を認めない）、小麦では発病茎率は55.0%（発生を認めない）であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場での発生に注意し、多発生が予想される圃場では防除を徹底する。

イ 被害わらは次年度の伝染源となるので適正に処分する。

2. 赤かび病

平成28年3月24日付け平成27年度病害虫発生予察防除情報第17号を継続。その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 4月上旬の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 4月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より多い見込みであるため注意が必要である。

ばれいしょ

1. 疫病

平成28年4月18日付け病害虫発生予察注意報第1号による。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査（24筆）の結果、寄生株率は11.8%（5.5%）、発生圃場率は41.7%（50.5%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

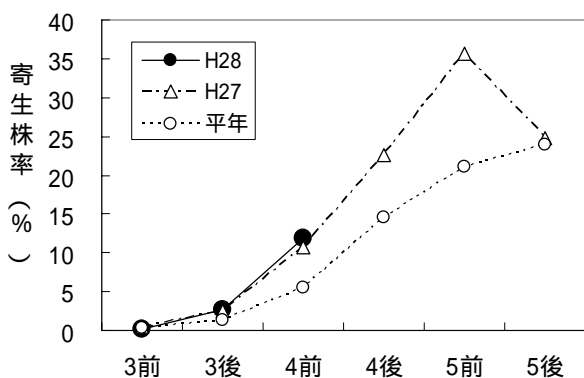


図 アブラムシ類寄生株率の推移

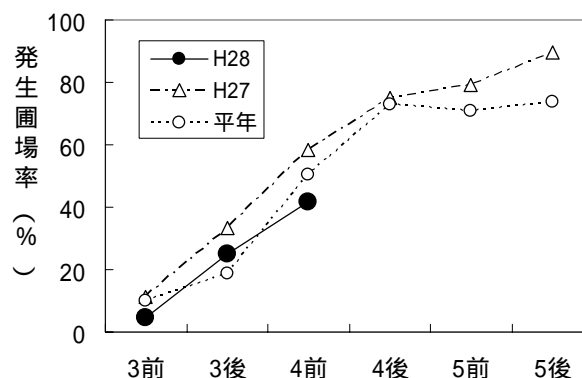


図 アブラムシ類発生圃場率の推移

3. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査（24筆）の結果、発生を認めなかった（被害株率 0.1%、発生圃場率 0.6%）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 栽培期間中に薬剤防除を行い本虫の密度低減を図る。
- イ 畝表面に露出したいもに産卵するので、栽培期間中は土寄せを十分に行う。
- ウ 掘り取りは日中に行い、掘り取ったいもは長く圃場に放置せず成虫が活動し始める夕方までに屋内に収納する。圃場に残したくずいも等はできるだけ早く処分する。
- エ 秋作用種いもを貯蔵する場合、貯蔵庫の開閉部や隙間からの成虫の侵入を防ぐとともに、貯蔵庫に収容したいもは寒冷紗、こも等で覆って成虫の侵入を防ぐ。
- オ 貯蔵中に被害が発生した場合は、定期的に被害いもを除去する。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.02%(0.4%)、発生圃場率は8.3%(17.7%)であった。

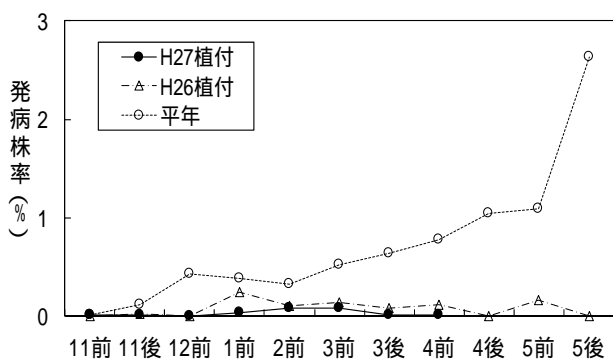


図 トマト黄化葉巻病 発病株率の推移

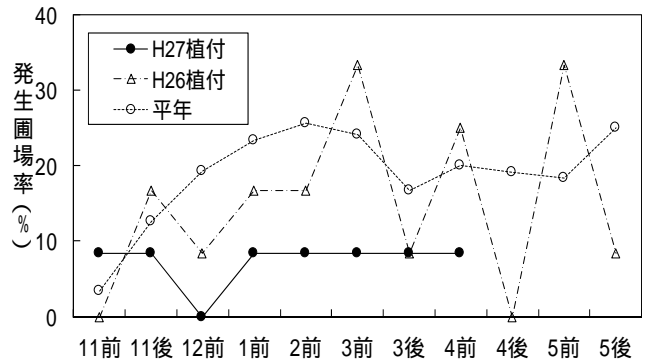


図 トマト黄化葉巻病 発生圃場率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.6%(0.5%)、発病葉率は2.3%(過去3カ年平均1.9%)、発生圃場率は25.0%(25.0%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.3%(1.2%)、発生圃場率は16.7%(29.2%)であった。

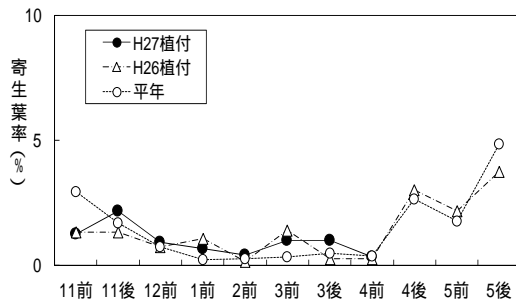


図 トマトのコナジラミ類 寄生葉率の推移

注)平年はH22～26年の平均値

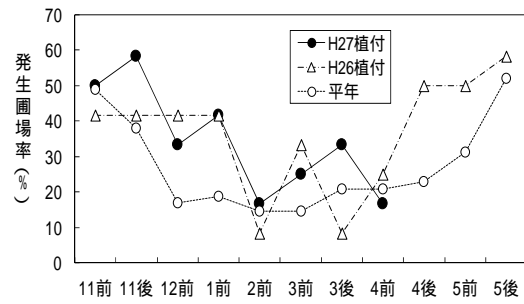


図 トマトのコナジラミ類 発生圃場率の推移

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.5%(0.1%)、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は11.1%(6.6%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.7%(0.3%)、発生圃場率は37.0%(19.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内が多湿にならないよう曇雨天時や気温が低い日もできるだけ換気を行う。

イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出して適正に処分する。

ウ 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天が続く場合はハウス内湿度が上がるのを防ぐため、くん煙剤を利用する。

エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.4%(0.5%)、発生圃場率は14.8%(8.4%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は11.1%(7.7%)、発生圃場率59.3%(42.7%)であった。

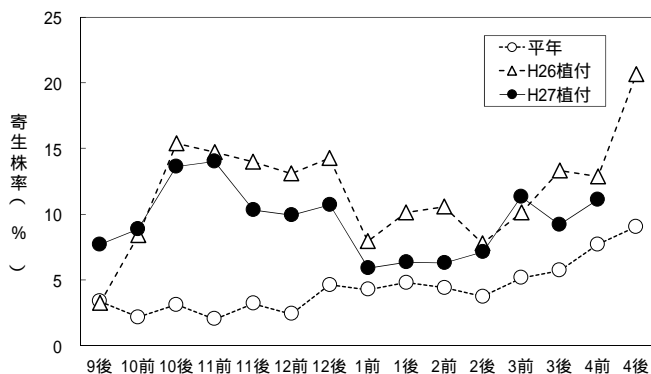


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
 平年：H17～H26の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H26の平均値

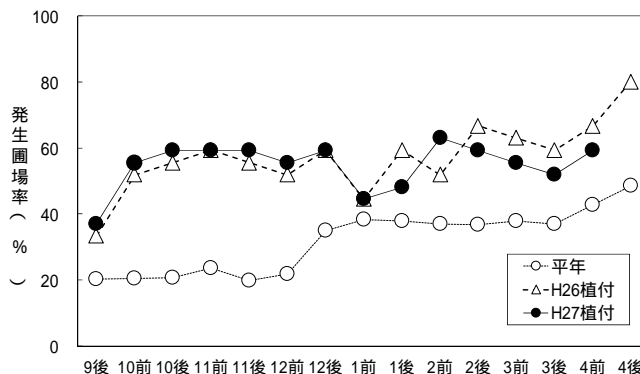


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
 平年：H17～H26の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H26の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすく、農薬が葉裏まで十分かかりにくいいため注意する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率2.2%)。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.3%、発生圃場率17.5%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は7.1%(1.3%)、発生圃場率は30.6%(19.3%)であった。一部の地域で多発生圃が認められた。

なし

1. 赤星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率1.0%)。

2. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.2%(0.4%)、発生圃場率は8.3%(16.7%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.02頭/m²(0.46頭/m²)と平年に比べ少なく、過去10年間で最も少なかった(平成28年2月17日付け**平成27年度病害虫発生予察技術情報第4号**参照)。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は4.8%(1.6%)、発生圃場率は68.8%(29.7%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(5回×4カ所当たり)は1.9頭(6.1頭)、発生圃場率は62.5%(67.2%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は4.1%(6.1%)、発生圃場率は31.3%(50.8%)であった。

【参考】

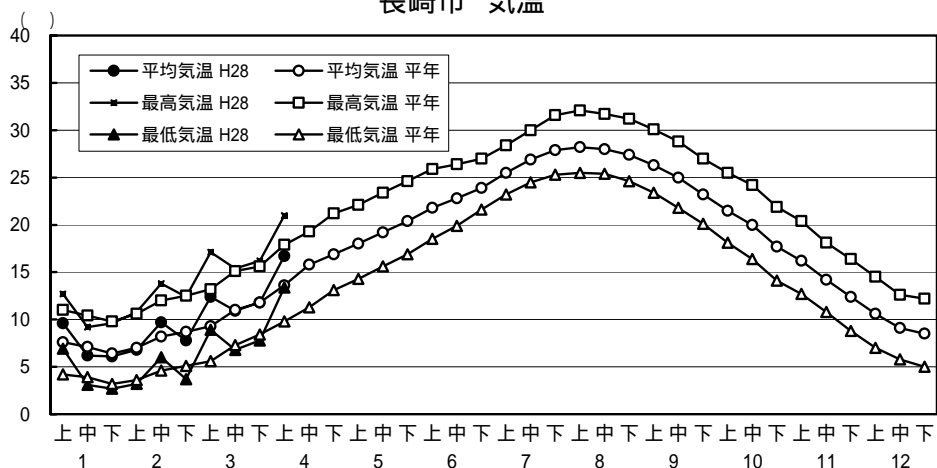
気象 (平成28年4月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	20	30	50
日照時間	50	30	20

予報対象地域：九州北部地域

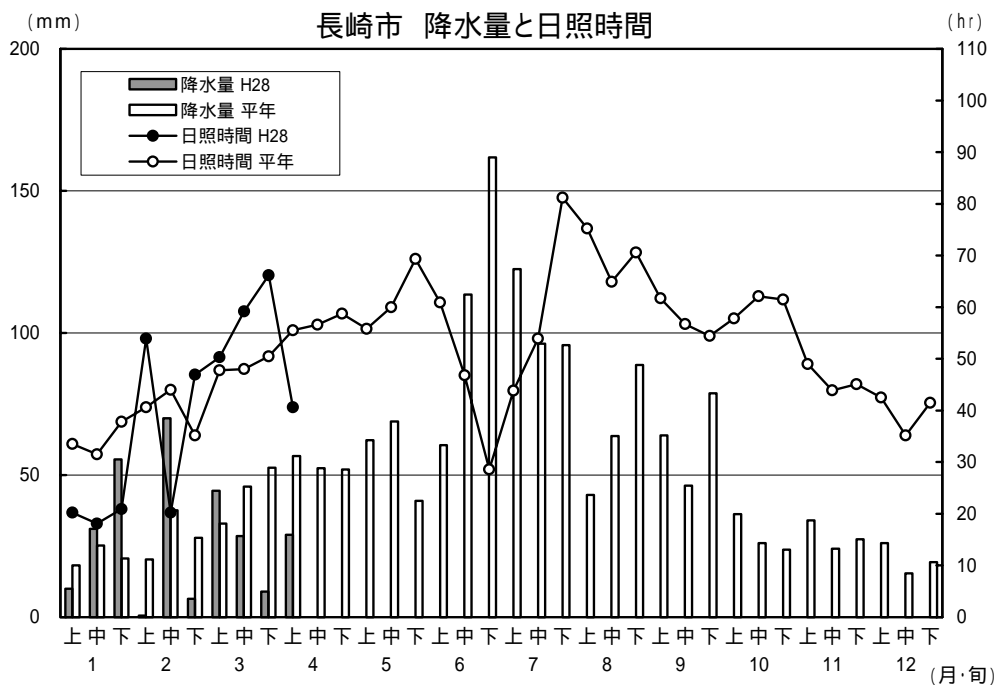
平成28年の気象経過 (長崎地方気象台)

長崎市 気温



(月・旬)

長崎市 降水量と日照時間



(月・旬)

長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

